

交換留学帰国報告書

記入 | 2024 年 12 月
所属 & 学年 | 農学部 4 年
卒業予定 | 2025 年 3 月

留学先大学	西オーストラリア大学
留学先国	オーストラリア
留学期間	約 10 ヶ月 （4 年次に留学）
留学開始－終了	2024 年 2 月 17 日 － 2024 年 11 月 17 日

A. 留学に至った経緯や留学準備について

①留学する大学や国、プログラムを決めた理由を教えてください。

2 年生が終わったタイミングで全学科目の国際理解科目の短期海外研修に参加して 5 週間ほど西オーストラリア大学内の語学学校で英語を学びました。現地の学生と仲良くなる中で、西オーストラリア大学の学生がとても生き生きしてやりたいことに打ち込んでいることに驚きました。徐々に僕もこういう人たちと一緒に勉強したいと思うようになり、帰国後に海外留学支援室の先生と相談して、交換留学生としてもう一度戻って勉強することに決めました。

②留学を志したきっかけや経緯、動機などについて教えてください。

高校生の頃から好きな教科だった英語を使わないでそのまま大人になるのは嫌だなと漠然と考えていました。名古屋大学に入学後、短期の留学プログラムや留学生向けの英語の単位を履修できることを知り、色んな経験を積んでいくうちにやっぱり海外で勉強してみたいと思うようになりました。

③留学前の海外渡航経験があれば教えてください。

渡航先	渡航時の学年	目的 & 期間など
オーストラリア (UWA)	2 年	語学研修 (5 週間)
タイ (KU:カセサート大学)	3 年	現地の農業を学ぶ (1 週間)

④実際に留学準備を始めたのは応募した時期からどのぐらい前でしたか？

語学研修から帰ってきて、3 年生が始まったタイミングで NU-EMI の遺伝学を履修し始めました。ただ、4 年次の交換留学の書類の期日が迫っていることに気づかず、IELTS の勉強時間がなかなか取れないまま試験を受けました。なんとか要件を満たせましたがとても焦っていたのを覚えています。

⑤海外留学室での相談内容、参考になったことなどを教えてください。

行きたい大学は決まっていたので、交換留学のための必要書類等、具体的に何が必要かを教えていただきました。西オーストラリア大学と名古屋大学の農学部で共同研究や博士課程でのジョイントディグリープログラムなどがあるおかげで、単位互換ができるかもしれないという話をそこで伺いました。そこから、農学部の先生とお話して現実的に何ができるのか相談をして、現地で卒論のための実験を行わせていただけることになりました。

B. 留学前の語学対策や単位などについて

- ① 留学前の語学対策、TOEFL などの受験回数などについて教えてください。

NU-EMI で遺伝学を受講していたのと、農学部資源生物科学科 3 年生用のプログラムでタイ、カンボジアの学生と交流する機会がありました。スピーキングなどを練習できる機会も大学内に意外とたくさんあるので利用してみると良いと思います。
IELTS は一度受験しました。

- ② 単位取得、単位互換、教職履修などに関してのアドバイスをお願いします。

現地の単位が名大の単位に交換できるかどうかはわかりませんが、西オーストラリア大学については名大の農学部とつながりがあるので、現地の先生を知っている名大の先生がいらっしゃるかもしれません。海外留学支援室の先生だけでなく農学部内でも色んな研究室に訪問して情報を探ってみると良いと思います。

C. 授業や勉強について

- ① 留学先で履修した科目と科目コード（例：MKG 2022 Introduction to Marketing）、時間数、形態、授業の内容、履修方法、などについて教えてください。

Semester 1:

Feeding the World (AGRI1001)

対面授業

週一で 3 時間のワークショップがありました。UWA の農学部の先生が講義をしたり、外部の研究機関や会社からゲストの方をお招きすることもありました。オーストラリアの農作物、例えば小麦、牛や羊、マカダミアナッツなどは世界中に輸出されています。つまり、オーストラリアの農業は国内だけでなく世界の食の安全や豊かさに影響を与えているといえます。こうした、インターナショナルな背景を知ったうえで国内（国外も）の農業での問題点を環境問題などを含めた現在ホットな話題と絡ませてグループで話し合いや課題をこなしながら勉強しました。毎週、トピックになる農作物が違い、そのトピックに応じておやつをもらえます（トピックが本当に幅広くて、ソーセージ、フルーツ、チョコレートなど色んなものを食べました笑）。消費者としての観点から生産者の観点まで思考を巡らせて今後の農業がどのような姿、形になっていくのか議論します。

Professional and Academic Communication (PACM1100)

対面授業

IELTS の点数が一定以上に達しないと、UWA から履修登録を勧められます。週 1 で対面の授業がありました。具体的にはレポートの書き方を学期を通して学びます。小さなクラスでとても細かく説明してくれて、一学期を通してレポートは書くことについて自信ができました。課題を通じて一人ひとりイントロの流れ、本論の書き方、参考文献の引用方法などを指導してくれます。

Plant Physiological Ecology (PLNT3301)

対面授業

週 2 で 2 時間の授業がありました。UWA で植物の生理学を学べる授業は 2 つあり Plants in action (PLNT2201) とこちらの Plant physiological ecology です。この授業は Level 3 だったので内容はハイレベルでしたが、より専門的で、オーストラリアに生息している植物について学べます。講師の一人には植物の根圏の研究において世界 5 本指にはいる Hanns Lambers がいて、一緒にフィールドワークなどを通じて現地の研究などについても知ることができます。

Semester 2:*Pasture and Livestock Systems (AGRI2201)*

対面授業

西オーストラリアで盛んな家畜生産と牧草について勉強します。オーストラリアの土壌は肥沃度が低いいため穀物生産を毎年行うだけでは土壌の劣化が著しいです。そのため畜産（休耕）と農作を組み合わせたスタイルの農業が盛んです。西オーストラリアでのメジャーな農業について勉強できる一番の教科だと思います。

Plant Diversity and Evolution (PLNT2204)

対面授業

植物分類学です。週 2 で 1 時間の授業とラボがあります。授業で取り上げた植物を実際にラボで観察して形態の違いを観察します。ラボで観察する標本は先生が前日に取ってきたフレッシュなオーストラリア固有種のサンプルです。開講時期が春ということもあり色々な花の勉強ができます。とても楽しいラボだと思います。

Crops and Cropping Systems (SCIE3314)

対面授業

西オーストラリア州の土壌、環境条件で農家の方々がどのように小麦などの穀物を栽培しているのかを勉強します。カバーしている範囲がとても広く、播種の仕方、時期や土壌の耕し方、農薬の散布方法まで学びます。こうした授業を下に課題では自分自身で小麦の栽培スケジュールを組み立てます。とても包括的で現地の農地でのフィールドトリップもあるのでオーストラリアの穀物生産について深く学べます。

②授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫を教えてください。

一人で勉強していると、なかなか勉強が詰まりがちだったので、先生に質問したり、友達とテスト対策を一緒にしたりして、周りに助けを求めながら授業の理解度を上げていました。課題ではグループワークなども多かったので、こうした課題に意欲的に参加することで、自然と友だちもできて授業の理解にもつながると思います。

③学習面で困ったことはありましたか。どのように解決しましたか。

最初の学期はなかなか英語が聞き取れなかったので理解するのに時間がかかりました。また、先生の課題やテストに関する指示なども聞き逃したり、理解していなかったりしていたことがあったので、やはりわからないことをわからないままにするのではなく先生や友達とコミュニケーションを通じて、なんとかついていくことが大事だと思います。

D. 大学生活について教えてください。

①現地の雰囲気や大学の校風について教えてください。

とても穏やかな校風だと思います。大学のすぐ裏がマチルダベイと呼ばれる川岸になっていて、よく生徒や現地の方がゆったり時間を過ごしています。その一方でテスト時期や課題の締め切りが迫ってくると多くの生徒が図書館にこもって勉強に時間を費やしています。オン・オフの切り替えがしやすい環境だと思います。

②ネット環境、施設、周辺環境などハード面について教えてください。

ネットは学内にいけばほとんど自分のデータを使う必要はありません。どの施設もきれいな建物でした。図書館は大きいものが 3 つぐらいあって、勉強場所には困りませんでした。図書館のモニターなども使えて便利でした。図書館内にいくつもミーティング用の部屋があり、グループワークなどで使用しました。

③留学先でどのようにして現地の学生と交流を深めましたか。

JSS (Japanese Student Society) というクラブがあり、日本について興味がある現地の学生などと交流できます。JSS では毎週 Kaiwa (会話) と呼ばれるイベントがあり、ゲームなどを通じて仲良く慣れます。Kaiwa だけでなく一年に数回大きなイベントを開催しているので、Instagram などフォローしてみると雰囲気がわかると思います。

④余暇の過ごし方（授業後や長期休暇など）について教えてください。

街の中心にみんなでご飯を食べに行ったり、海が近いのでビーチで時間を過ごしたりしました。シドニーやメルボルンなどに比べてそこまで大きい都市ではないですがロットネスト島など観光地もあります。日本では経験できないことで溢れていると思います。僕は少しパースをひいきしている節があるかもしれませんが、飽きて暇になることはありませんでした。ゆっくりすごせていい街だと思います。

E. 健康管理、保険、予防接種など

①健康管理あるいは衛生面について注意していたことはありますか。

課題、テストなどで生活リズムが乱れることもありましたが、寮生活でご飯の心配などもなかったので健康に一年過ごせました。
一年通して過ごしやすい気候ですが、時期によっては日内の気温の上下が大きいので外出する際はプラス一枚服があるといいと思います。

②留学中に病院へ通った経験の有無、医療費などについて教えてください。

とくに健康面で困ったことはありませんでした。

③留学するにあたって、予防接種は必要でしたか。

☐ はい（種類：）

☒ いいえ

F. 住居、食事、マナーなどについて

①留学中の滞在先について教えてください。

形態	☒ 寮 ☐ 下宿 ☐ アパート ☐ ホームステイ ☐ その他（ ）
何人部屋	（ 1 ）人

②生活（住居、食生活、服装など）や習慣の違い（マナー、対人関係）、安全面などについて、困ったこと、気をつけていたことがあれば教えてください。

寮生活で食事は毎日出てきました。困ったこと、気をつけていたこととしては、寮で共用の冷蔵庫から食べ物が取られることがありました。あまり食べ物を長く入れっぱなしにしておくのは危険だと思います。
街に夜行くと、大声を出している人や危ない薬を使っている人がいたりするので、一人での夜遅くの外出は控えたほうがいいと思います。

③日本から持参するとよいもの、または持参しなくてもよかったと思うものは何でしょうか。

持参すると良いもの

- 寮で舞踏会みたいなイベントがあったので男子はスーツ、女子はドレスなどがあると良いと思います。
- 冬は寒い時期もあるのでもう少し厚手の服を持ってこればよかったと感じました。
- 帽子、サングラス、日焼け止めなどは必須アイテムだと思います。

- ・ 僕も全く知らなかったのですが、オーストラリアは結構花粉が飛んでいます。マスク、花粉症の薬は持っていけばよかったと後悔しました。

持参しなくても良かったもの

- ・ 日本から持っていったわけではありませんが、支払いはほとんどカードなので現金はほぼ使いませんでした。

④参考となる留学先国の情報（出版物、web サイト）を教えてください。

「ことりっぷ」のシリーズにパースの旅雑誌があります。

G. 留学費用について

①留学費用や支出の管理などに関してアドバイスがあれば教えてください。

寮費がとても高いので奨学金はほとんど家賃で消えていきました。円安も進んでいたのも、お金をドルに換金するタイミングはもっとよく考えたほうが良かったなと思います。円安の時期にお金を返金して少し無駄にってしまった事がありました。

②奨学金は受給していましたか。

☒ はい（奨学金名： 業務スーパージャパンドリーム財団 留学支援 支給額：15万円/月）

☐ いいえ

③差し支えない範囲で留学費用を教えてください。*内容の費目は自由に変わってください。

内容	金額	備考
渡航費	20 万円	
保険代	5 万円	日本のものだけでなくオーストラリアの保険にも入りました。
住居費	4 万 2 千円/週	奨学金はほとんど寮のレントでなくなりました。（\$420/week）
食費	1 万円	寮で食事は出たので、友達と月に 2~3 回食事に行きました。お酒を飲まなくてもだいたい一回 3 千円ぐらいでした。

H. 今後の進路や目標、就職活動について

①卒業後の進路（進学、就職、その他）について教えてください。

☒ 進学

☐ 就職

☐ その他（ ）

②今後の進路や目標があれば教えてください。また留学の前後で、進路や目標に対しての考え方や気持ちの変化があれば教えてください。

今後は名古屋大学大学院に進学して修士、博士課程に挑戦する予定です。留学する前はそこまで自分が博士課程まで在学している姿が想像できませんでした。しかし、オーストラリアでやりたいことや自分の得意なことを将来の職業につなげるために実践的な知識をつけている友達と出会って、考え方が変わりました。僕も農学はとても意義・やりがいがあり、面白い学問だと思うので、博士課程まで進んで専門的な知識を得て、世界の食糧問題を少しでも解決できるような人材になりたいと思っています。

- ③留学中に就職活動を行った方は、具体的なエントリー、一時帰国の時期、感想などを教えてください。海外留学生用の就職活動を受けた場合はそれに関する情報をお願いします。

進学するため就職活動は行いませんでしたが、大学院入試のために一時帰国をしました。その時期は学期も始まって課題+大学院入試の勉強があったので大変でしたが、なんとか合格して良かったです。

I.留学を終えて感じること

- ①留学を終えて今の率直な気持ちや感想、印象に残っていることなど教えてください。

とても充実した一年が過ぎました。最初の半年は授業、研究についていくことが難しく大変な時期もありましたが、仲間や先生方、家族に支えられてなんとか無事にこの一年を実りのある年にすることができました。留学後半に差し掛かって、生活に慣れて来た頃にはすでに残りの滞在時間が短くなっていて残念だあという気もしましたが、将来また再会できることを楽しみにして、今は自分の研究について最大限の力を注いでいます。

- ②留学したことで、何がどのように変わったと思いますか。

留学の前と後で、自分の好きなことがよりはっきりして、自分自身の仕事へのこだわりが強くなったと思います。留学前から自分の将来について考えてはいたものの、まだ曖昧で迷いながら目の前のことに取り組んでいました。しかし、今は自分が将来何をやりたいかがはっきりしてそのために必要なことが頭に浮かんできます。そうした仕事には迷いなく自分の出せる全力を注げるようになったと思います。

- ③現在、留学を考えている学生へのメッセージをお願いします。

留学は自分の好きなことだけに集中できるまたとないチャンスです。自分の行ってみたい国へ行って、興味のある教科だけを勉強できて、一生懸命一日一日を過ごしていれば必ず充実した日々になると思います。そんな日々を想像しながら留学準備頑張ってください！応援しています。

◆自由記述欄◆



現地の農地（夏）



UWA

大学の研究施設



研究施設 2



寮の友達と取った写真です。





小麦とキャノーラ畑（冬）

フィールドトリップの様子（Plant diversity
and evolution）スパイダーオーキッド



ラボスケッチ用の植物サンプル